

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
2【かかわる】	⑫【ボランティア】 他の人や地域社会に役立つことを自分から進んで実践し、他人の喜びを自分の喜びとして共感する。	道 徳

【題材】 奥中山の3. 11東日本大震災

【対象】 第5学年 16名 第6学年 23名

【実践の概要・詳細】

(1) **ねらい** 内陸部の奥中山の子どもたちが、東日本大震災を遠いどこかのお話ではなくまさに自分たちの問題としてとらえ、将来につながる「自分にできることは何か」を考え始めるために、あの日「奥中山であったこと」「奥中山の人たちがしたこと」（実は奥中山にも大変な危機があり、困った人のためにボランティア精神を発揮して行動し尽力した人たちがたくさんいた。）にふれることに大きな教育的価値があると考えた。そして、そこから子どもたち一人一人に、「人のために役立つ喜び」や「相手の立場に立ち、相手を思って行動する尊さ」を学ばせたいと願い、この学習を計画した。

(2) **本校復興教育の中の位置づけ**

今年度の本校の復興教育は「いわての復興教育」に示された3つの教育的価値のすべてに取り組み、具体の21項目のうち17項目に1年間のどこかで取り組むものとなっている。全校で取り組んだもの（「⑤やり抜く強さ」「⑨仲間や地域の人々とのつながり」「⑩学校・家庭・地域での日頃の備え」など）もあるが、児童の発達段階をふまえ、4年生以上の高学年で主に取り組んだものもいくつかある。

「⑭復旧・復興へのあゆみ」「⑮東日本大震災津波の様子と被害の状況」の項目については5・6年で取り組んだが、久慈市への被災地見学や被災者のお話を聞く活動、震災津波のビデオ視聴など、直接的に東日本大震災に向き合う内容である。これらとのかかわりで、理科の自然災害の学習やAED講習など他の学習も、より学ぶ意義が増すと実感した。

この「奥中山の3. 11東日本大震災」の学習も、それらの学習の積み重ねの上に計画した。児童一人一人が「自分にできることは何か」という問題意識をもち、地元の人々の行動や思いにふれることで、学びはさらに深まるであろうと考えた。なお、この学習の中心項目は「⑪ボランティア」だが、①⑤⑨⑩⑫⑬⑮等の項目も関連して学習させることができた。

(3) **実践の概要**

5・6年合同の道徳の時間に「奥中山の3. 11東日本大震災」をテーマに講演会を行った。講師には地元の方をお招きしたが、事前の打ち合わせを重ね、ねらいをよく理解してお話しいただくとともに、子どもたちの理解度に配慮したお話をさせていただくよう働きかけた。

児童たちもメモを取るなどしてお話を聞き、そのあと書きまとめた文章からは、郷土を愛し思いやりをもち復興を支援する意欲を強くもてたようであった。



【授業の展開】

(1) 事前の学習

東日本大震災について「あのとき、どんなことが起きたのか」「今はどうなっているのか」などを改めて知り、「自分がこれからできることは何か」などの問題意識を高める。

道徳の授業に向けて、次のような活動を学級ごとの計画で実施した。

- ・東日本大震災に関わる図書等を読む。(図書室の関係図書コーナーの活用、新聞記事による事前学習プリントの配付)
- ・東日本大震災に関わる映像を見る。(記録DVDの視聴)
- ・東日本大震災について知っていること、見聞きしたこと、考えたこと、経験したことなどを、学級で話し合う。(7月の被災地訪問をふまえての話し合いなど)

(2) 道徳授業での学習

①学習課題「東日本大震災のあった時、奥中山の人たちは、何を考えどう行動したのか。」を提示した。また、学習の流れを確認し、講師の方々の紹介を行った。

②課題解決するために、2人の講師の話をお聞かせした。

ア 一戸町民まちづくり公社・代表 坂上一雄氏

- ・奥中山にある障害者支援施設「中山の園」への食材提供等の支援を行っている団体。
- ・震災時はその「中山の園」に届ける食材の調達にたいへんな苦労があったが、地域の絆で乗り越えた。(5月に岩手日報に関連記事掲載)
- ・お聞きしたのは、その苦労、どう乗り越えたか、思いや願い、子どもたちへのメッセージ。

イ 奥中山高原クラブ・会長 武田 昇氏

- ・奥中山高原クラブは、地域総合型スポーツクラブ。年間を通して地域の方々が参加できるさまざまな行事等を企画運営している。学校の活動を支援する活動もしていただいている。
- ・震災時は一致団結し、被災地を訪ねて物資を届け炊き出しを行った。また、全国からたくさんの物資が送られた産業文化センターに物資仕分けのボランティアに何度も出かけた。
- ・お聞きしたのは、その時の思いや願い、経験、苦労、子どもたちへのメッセージ。

③話をお聞きして考えたことを書きまとめさせた。

ア 書きまとめる視点 「奥中山の人たちを自分はどう思うか」

「自分がこれから大切にしたいことは何か」「被災者や復興のために自分は何ができるか」

イ 児童の書いた文章から

- ・困った時必死に考えて中山の園の240人の命を守ったことは、すごいと思いました。そして、奥中山の絆は本当にすごいと思いました。それから、ボランティアをして困っている人たちを助けたいと思った人が、奥中山にたくさんいることにびっくりしました。
- ・東日本大震災の時、中山の園で食糧がなく、奥中山の農家から軽油をもらい食べ物を届けられた話を聞き、「使命感」が大切だとわかりました。話を聞いて、信頼、使命感、あきらめないこと、絆、思いやりの精神、そして協力がとても大切だと教えていただきました。
- ・津波のひ害を受けた沿岸部の人たちはとてもたいへんだから何か役に立ちたいと、ボランティアをしたんだと聞いて、すごいなあと思いました。ぼくもこれからでも少しでも沿岸の人たちの役に立ち、復興させたいです。
- ・お話を聞いて、わかったことがいっぱいありました。一番心に残ったことは、あきらめないことです。私は、これから人の気持ちを分かる人になりたいです。

(3) 事後の学習

- ・書いたものを、「お互いに読み合う」「地域の方々にも読んでいただく」等の機会をもった。
- ・講師の方にお礼の手紙を書くとともに、考えたこともお読みいただいた。

(4) まとめ

- ①震災・被災地・復興について学ぶことと、自分たちの地域について学ぶことを重ねて行うことで、児童は学びを深め、より主体的に復興にかかわる意欲を高めることができた。
- ②他の活動についても、復興教育としての文脈を(教師のみならず子どもたちにも)さらに意識させながら取り組ませていきたい。また、今後はさらに実際の行動も考えさせたい。
- ③地域の特徴を生かした復興教育の創造を、学習材の開発や地域人材等の活用を積極的に行いながら、学校が地域づくりに貢献していくことも視野に入れて、さらに進めたい。